



No. 43
2014 Winter

山松舎
臨南寺

いよいよ越前の地へ

比叡山の動きも活発になります。義重の耳にも僧兵たちの興聖寺襲撃の噂が聞こえてきました。

特集

道元禅師ものがたり

18



十年に及ぶ布教活動に終止符を打ち、越前の地に移ることを決意します

血のつながる後嵯峨天皇に上奏

前回のお話をまとめますと、仁治三年（一二四二）道元禅師の父親のひ孫にあたる邦仁王が後嵯峨天皇として即位しました。その年、興聖寺の目と鼻の先に巨大伽藍の東福寺が完成し、宋から帰国した円爾和尚を迎えて天台・真言・禅の三宗を兼学する道場としたのです。

こうした動きに危機感を抱いた道元禅師は、「達磨大師から如浄禅師をへ

て自分に伝わった純粹禅こそ真正な仏法であり、国を守る中心に据えなければならぬ」との思い強く、『護国正法義』を書き起こし後嵯峨天皇に上奏したのです。これを知った比叡山が猛烈な反論書を上奏。ついに宗論争いとなつて、朝廷は判定を比叡山の高僧にゆだねました。当然のことながら道元禅師の主張は受け入れられず、禅師の教えは護国の趣旨に反するものという烙印を押されてしまいます。

よみがえる恩師の言葉

道元禅師は血のつながりがあるとはいえ、天皇に近づいたことを反省します。同時に、宋から帰国する間際に聞いた恩師の如浄禅師の言葉がよみがえりました。

「国王や大臣に近づいてはならない。都市に住まず、深山幽谷に住みなさい。大勢の人に教えを広めるより、少人数でも本當の教えを伝える真の弟子を育てなさい。禅の道を絶やさないうために」

道元禅師の最大の庇護者であった波多野義重は、六波羅探題の評定衆の一人でもあり、新仏教への弾圧を目的の当りにしてきました。十年に及ぶ布教活動の結果、禅の教えが広まり、興聖寺には多くの人が道元禅師の説法を聞くよう集まっていました。そうなる

道元禅師の身を心配した義重は、地頭を務める越前（福井県）の志比の庄へ移ることを勧めました。越前には、懐契に続いて大挙入門してきた日本達磨宗の拠点、波著寺がありました。これらの弟子たちには懐かしい場所でもあります。

寛元元年（一二四三）五月八日、恐れられていたことが起こりました。興聖寺の一部が比叡山の僧兵たちの手によって破却されたのです。ここに至って道元禅師は越前へ移ることを決意します。興聖寺を弟子の義準と詮慧に任せ、懐契らとともに七月十七日京を出発して越前に向かいました。道元禅師四十三歳の夏でした。

興聖寺は詮慧の後、四代で廃絶となりましたが、江戸時代の慶安二年（一六四九）、臨南寺を開いた萬安英種大和尚によって宇治に再興され、現在に至っています。

新しい年に福を招く 弁財天祈禱会を修行します

一月十五日午前十時から本堂で
弁財天祈禱会を修行します。

弁財天様は七福神の一人で、
商売繁盛、合格祈願、芸能上達に
靈験あらたかといわれます。臨南
寺の弁財天様は、かつて長居池の
北之島にあった弁天堂を移した
もので、古くから地域の守護神と
して信仰されてきました。

弁財天祈禱会では、「大般若波
羅蜜多經」六百巻を転読いたし
ます。この経典は、唐時代の高僧・
玄奘三蔵がインドから中国へ持ち
帰り、四年間かけて漢訳したもの
で、古来より大きな靈力を持つと
信じられております。

新しい年が安らかで穏やかであ
りますよう、また世界から戦争や
疫病などが少なくなりますよう
皆様とともに祈りいたしましよ



お一人、おひとりの無病息災・家内安全をご祈念いたします

う。また、皆様の無病息災・家門
隆盛・家内安全を願って、お札、お
守り、破魔矢をお授けいたします。

法要の前には護善会の会計報告、
総代さんのご挨拶があり、法要の
後には温かい甘酒も用意いたして
おります。皆様の厄を払い福を招
く弁財天祈禱会に、ご家族、お友
達を誘い合わせてお参りください。

寺景 臨南 百景



「火の用心」の

秋葉様を勧請

開眼法要を執り行いました

参道の右側に「火の用心」で有
名な秋葉様のお堂が完成、九月十五
日に開眼法要を執り行いました。秋
葉堂のご本尊は秋葉三尺坊大権現様。
白狐の背に立つ烏天狗のお姿をした
失火と延焼を防ぐ火防せの神様です。
千三百年前、観音様の化身として出
現されました。

浜松市の秋葉山頂の秋葉寺に参る
「秋葉参り」は、江戸時代には伊勢
参りをしのぐほどだったといえます。
しかし明治六年秋葉寺は廃寺となり、
静岡県袋井市の曹洞宗寺院である可
睡斎に移されました。可睡斎は徳
川家康の帰依を受けたことでも有名
です。

郷土史家の石田末吉氏が編集した
「長居郷土史」によると、「臨南寺

には本堂の外に禅堂、鎮守堂あり。
鎮守堂には秋葉三尺坊、禅堂には観
世音菩薩を安置し、共に宝永元年
三月の建立なり」とあります。宝
永元年は一七〇四年、ちょうど三百
十年前のことです。

このほど、マトリ合同法要の法話
をお願いした常楽寺の高綱耕玄住職
のご尽力により秋葉様を勧請するこ
とができ、かつての鎮守堂を再建す
ることができました。「失火と延焼
と一切の火難から逃れる」だけでなく、
「病苦と災難」「生業と心願」にも
不思議な法力を発揮されると伝えら
れています。皆様もどうぞお参りく
ださい。



秋葉様のお堂が完成、開眼法要を行いました

住職
日誌

ダライ・ラマ法王十四世と

秋葉三尺坊大権現様

まもなく平成二十六年も終わりを告げようとしています。檀信徒の皆様におかれましては健やかに過ごしのことと拝察申し上げます。

今年も当山にもいろいろな事がありました。まず、何と言ってもダライ・ラマ法王十四世の特別講演を開催したことでしよう。四月九日、過密スケジュールを縫うようにして、狩下は当山にお見えになりました。非常に気さくな方で、私たち僧侶だけでなく家族や関係者にも気安くお声を掛けていただきました。

今回の特別講演ではさまざまな美しい言葉が語られました。「何よりも大切なことは、与えられた人生を意義あるものにしていくことです」「人間社会に何らかの形で役に立つことをし、人を助けることができたなら、それこそ意義ある人生と言えます」「他の人のために役

に立とうと思っていれば、他の人たち

と非常に近しくいという関係にある

と感じることがができます」「愛と慈

悲の心は、本来的に私たちに備わって

います」「他の人も自分とまったく同

じ一人の人間であると考えることで、

偏見のない愛に高めていけます」

二十四歳で祖国を失い、五十五年

間も難民として生きてこられたダラ

イ・ラマ法王ならではの滋味あふれる

言葉ばかりでした。

会場の関係もあり皆様すべてのご

参加のご要望にお応えすることがで

きませんでした。講演の模様は「ほく

つと」四十二号でご報告申し上げます。

講演会を収録したDVDも販売して

おります。「ほくつと」四十二

号を改めて読み返してみると、あの

日の感動がよみがえる思いがいたし

ます。

もう一つは、「火の用心」で霊験あ



臨南寺 住職

大澤正道

らたかな秋葉三尺坊大権現様のお

堂を参道の右側に建立したことです。

静岡県袋井市にある火防総本山「可

睡斎」から分祀していただきました。

その昔、江戸中期の臨南寺には鎮守

堂があり、秋葉三尺坊大権現様がま

つられていたそうです。マトリ合同法

要で法話をお願いした常楽寺の高綱

耕玄住職のご尽力もありました。こ

れも御仏縁のたまものと言えます。

来年はさらに山門や客殿の建設

に着手する予定です。皆様方もより

よいお年をお迎えいただきますよう

ご祈念申し上げます。

合掌

臨南寺行事予定(一〜二月)

○ 弁財天祈祷会(本堂)

* 一月十五日 午前十時

新年を迎えて最初の年頭法要です。新しい年がよい年になりますよう、皆様の厄を払い福を招く法要を行います。温かい甘酒の振る舞いもございます。誘い合わせてお参りください。



○ 釈尊涅槃会(本堂)

* 二月十五日 午後二時

お釈迦様が入滅された二月十五日、涅槃に入るお釈迦様のお姿を描いた涅槃図を飾り、供養と感謝の法要を行い、ご入滅をしのびます。

* 一月二日〜三日は、寺務所は閉めさせていただきます。

線香、ろうそく、花等は、本堂前で販売しております。

* 第二土曜日の早朝坐禅会は、一月はお休みさせていただきます。

* 開門は午前五時、閉門は午後九時となっております。

マトリ合同法要

名言は人間の生き方まで

変えてしまう

がつしよう園マトリの合同法要が、十二月九日(日)本堂で営まれました。法話は静岡県にある常楽寺住職の高綱耕玄老師です。高校球児だったころの思い出、本山での修行時代のお話から始まり、「心に残る名言は、時に人の生き方まで変えてしまう」と東西の名言を紹介されました。

「逆境の中で咲く花は、どの花よりも貴重で美しい」(ディズニー)、「明日死ぬかのように生きよ。永遠に生きるかのように学べ」(ガンジー)、「第三者の評価を意識した生き方はしたくない。自分の納得した生き方をしたい」(イチロー)、「人を信じてよ。しかしその百倍も自らを信じよ」(手塚治虫)。どの言葉も心に染み入るようです。

法話を聞いたあとマトリに移り、読経が続くなかご焼香していただきました。お墓の継承が難しい時代、永代供養のマトリへの入会が増えています。



お話しされる常楽寺住職の高綱耕玄老師



墓苑をご利用の皆様へ

- 手桶を花立て代わりに使わないでください。ご使用後は必ず元の場所へお戻しください。
 - お墓参り以外での駐車はご遠慮ください。境内では最徐行をお願いいたします。駐車中の事故等は一切責任を負いかねます。
 - ペットを墓苑内に連れて行かないでください。
 - お供物は、カラスなどに荒らされる原因となりますので、各自お持ち帰りください。
-
- トイレにはトイレトーパー以外は流さないでください。ティッシュペーパーは水に溶けません。ウエットティッシュや紙オムツも絶対流さないでください。

年末年始のゴミは ゴミ用コンテナに 入れてください



十一月三十一日～二月四日の間、寺務所の向かいにゴミ用コンテナを設置します。お墓まわりのゴミはすべてゴミ用コンテナに入れてください。花や紙類だけでなく、缶や瓶もOKです。墓苑を美しく清潔に保つていただきますようご協力をお願いします。

彼岸会施食会を修行しました

彼岸会施食会

が九月二十六日、本堂で修行されました。亡くなられた方の冥福を祈り、ご先祖に感謝する法要を執り行いました。



彼岸会施食会にたくさんの方がお参りになりました

お気軽にご参加ください

早朝坐禅会

毎月第一土曜日

午前六時半～ 本堂にて

* 一月・八月は、お休みさせていただきます。

写経会

毎月二十日

午前十時～午後三時

写経料・千円 椋伽林二階にて

* いずれも事前のお申し込みが必要です。

編集後記

広島土砂災害、御嶽山の噴火、白馬村の地震……今年も各地で天変地異が発生し、多くの命が失われ、多くの方が避難生活を余儀なくされました。一日一日生かされていることに感謝し、来年こそ平穏な一年でありますようにと願わずにはおられません。(M)

「ほ～っと」43号

平成26年12月

編集・発行：椋伽林「ほ～っと」
編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

☎ 0120-667-638

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com